

# ボリコナゾールによる無顆粒球症を発症した慢性進行性肺アスペルギルス症の 1 例

細谷堯永<sup>1,2</sup>, 西野亮平<sup>1</sup>, 大岡郁子<sup>1</sup>, 渡部雅子<sup>1</sup>, 水本正<sup>1</sup>, 菅原文博<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 広島市立北部医療センター安佐市民病院呼吸器内科

<sup>2</sup> 広島大学病院呼吸器内科

## ・要旨

慢性進行性肺アスペルギルス症に対し、イトラコナゾール (ITCZ) を投与したが、病勢制御が困難でありボリコナゾール (VRCZ) へ変更した。しかし、変更後 2 か月で無顆粒球症を認めた。一旦 VRCZ を休薬し、好中球実数回復後に VRCZ を再開したが、約 2 か月後に無顆粒球症を再度発症した。再度 ITCZ へ変更すると無顆粒球症は発症しなかった。本例の経験から、VRCZ が無顆粒球症の起因となる薬剤であることが示され、その場合アゾール系薬剤内での変更が忍容される可能性が示唆された。

## ・キーワード

ボリコナゾール, 慢性進行性肺アスペルギルス症, 特発性薬剤誘発性無顆粒球症

Voriconazole (VRCZ), Chronic progressive pulmonary aspergillosis (CPPA), Idiosyncratic drug-induced agranulocytosis (IDIA)

## ・短縮タイトル

VRCZ による無顆粒球症を発症した CPPA の 1 例